

平成23年第4回定例会採択陳情要旨

陳情第14号

給食の更なる安全管理強化に関する陳情

給食について、現在、市ではシンチレーションサーベイメータを使った食材の検査を行っています。この測定器におけるセシウム濃度の検出下限値は、市ホームページによると67.8ベクレル／キログラムとなっています。このことは、不検出という表記であっても67.8ベクレル／キログラム未満ということを示唆します。67.7ベクレル／キログラムの場合は不検出となってしまうのです。

この検出下限値では子供の将来の健康を考慮した場合、安心できるのか、安心できないのかの判断ができません。

実行案として、

1.神奈川県横須賀市が行っている給食検査のように、ゲルマニウム半導体検出器による検査を行う。

2.現在週1回行っている給食に使用される食材の産地の公表、及び検査の回数を可能な限りふやす。

3.事前に公表できる給食の使用食材の産地や献立については、公表する。

横須賀市が行っている給食検査のゲルマニウム半導体検出器による検査での検出下限値は、セシウム137において0.6ベクレル／キログラム、セシウム134において0.7ベクレル／キログラムです。船橋市でも、給食をゲルマニウム半導体検出器による外部委託検査によって行っています。

この検査が実施されれば、それ以下の検出下限値の検査を求める保護者はいないと思われれます。また、給食は毎日子供たちが摂取するため、可能な限りの検査回数追加が求められます。さらに提供後だけでなく、提供前の食材についても事前に公表できるものは産地を公表することが安心につながると思います。

給食に関して市では、教育委員会での意思決定が重視されるとの話もあります。子供たちの教育、成長に専門的にかかわる教育委員会の方々にこそ、子供たちの健やかな成長、未来への安心を真摯に考えていただきたいと思えます。

今が大丈夫ということではありません。低線量被曝の影響は発病までに何年もかかります。子供たちの5年後、10年後のことを真剣に考えてください。子供を守る姿勢を市民に率先して示し、体制を整備していくことが、本当の意味での市の明るい未来につながると思います。

放射能と向き合う問題は、この後何年続くかわからない問題です。できることはできるだけ早く対応することが、この問題において大変重要だと思えます。市民が安心して暮らせるための対応を切にお願い申し上げます。

前回の市議会において、放射能対策の陳情が採択されましたが、現状の対策を見ると、子供たちが毎日摂取する給食において、安心できる十分な対応がなされていないように思えます。県内でも各地で高い線量の放射線が報告されている今、未来を担う子供たちを放射線による被曝から守るため、さらなる給食の安全管理の強化実施を求め、下記事項を陳情いたします。

記

- 1 給食からの内部被曝ゼロを目指した安全管理のさらなる徹底を行うこと